

(別紙)

埼玉大学と東洋大学の包括連携協定による主な取組みについて (案)

埼玉大学は 1949 年に新制国立大学として創設され、「知の府としての普遍的な役割を果たす」、「現代が抱える課題の解決を図る」、「国際社会に貢献する」を掲げ、地域活性化の中核拠点としての役割を担いつつ、人類の新たな知の地平の開拓と現代的課題の解決に資する研究力の向上に努めています。

東洋大学は 1887 年に創設し、「諸学の基礎は哲学にあり」の理念のもと、文系・理系を擁する総合大学として発展を続け、1961 年に埼玉県川越市に、1977 年には同県朝霞市にキャンパスを開設。朝霞キャンパスは再開発によって 2024 年に「生命 (いのち) と食」に関する総合的な教育・研究拠点に生まれ変わりました。包括連携協定に基づき、連絡協議会 (予定) を設定し、以下のようなさまざまな取組みを加速させる予定です。

研究施設及び研究機器の共同利用を行います

両校の研究設備利用の共用を推進することにより、社会課題への解決スピードを加速させることが期待できます。

- ・埼玉大学 「研究機構科学分析支援センター」 (<https://www.mlsrc.saitama-u.ac.jp/>)
- ・東洋大学 「朝霞共通機器利用センター」 (朝霞キャンパス/Webサイト準備中)
「バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター」
(川越キャンパス/https://www.toyo.ac.jp/research/labo_center/bnel/)

「彩の国女性研究者・技術者ネットワーク」を強化します

埼玉大学が主催する「彩の国女性研究者・技術者ネットワーク」は、女性研究者と技術者が活躍する場を提供し、埼玉県の高齢性を推進する重要な役割を果たしています。このネットワークは、異なる視点を持つ研究と技術開発を活性化させて、男女問わず、家庭と仕事の両立を支援する環境を作るとともに、女子学生に対して多様なロールモデルを提示することにより、次世代の研究者と技術者を育成することを目指しています。

東洋大学では「ダイバーシティ&インクルージョン推進プロジェクト」を進行させており、本ネットワークに参画することにより、女性研究者・技術者のキャリア支援と専門性の向上を図ることができ、両校の連携により科学技術分野における女性のリーダーシップを育成し、多様な人材が活躍できる環境を創出することが期待できます。

「理工系の豊かなイメージと多様な未来を！彩の国・理工系進路選択エンカレッジプログラム」を共同実施します

埼玉大学は「彩の国理工系女子のためのエンカレッジ拠点」を設けて、女子中高生の理工系分野への関心を高める活動を展開しています。大学教員が中学や高校に出前授業を行うとともに、サイエンス体験サマースクール、ワークショップ、ものづくりの現場訪問、研究者との懇談会を開催し、女子中高生に理工系の魅力を伝えながら進路選択を促すことを目的としています。

東洋大学は理工系学部での女子学生の割合が増加傾向にあり、本プログラムに参画することにより、例えば、女子学生が中高生に理工系の魅力を伝え、女子中高生にとっての将来像をイメージしやすいロールモデルを提供することなどが期待できます。

その他の事項

- ・FD(ファカルティ・ディベロップメント)※2、SD(スタッフ・ディベロップメント)※3研修の共同開催、相互参加の実施
- ・学生交流や課外活動の交流
- ・図書館の相互利用
- ・教職員の派遣や交流等

※2 教育の質を改善・向上させるための取り組み ※3 大学教職員の能力開発による教育改善の取り組み